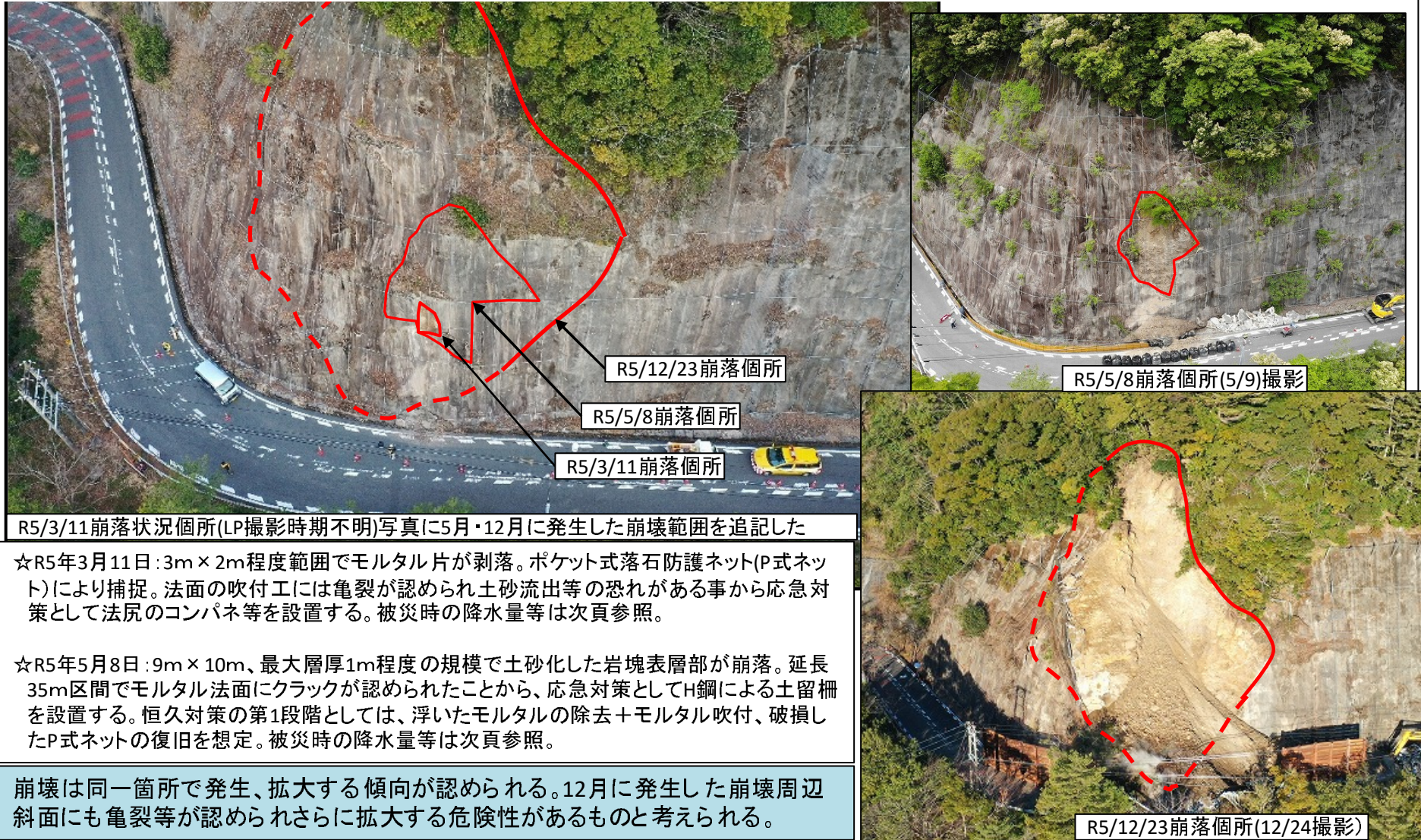


3 過去の経緯 (既往緊急点検結果)

3.1 緊急点検の経緯

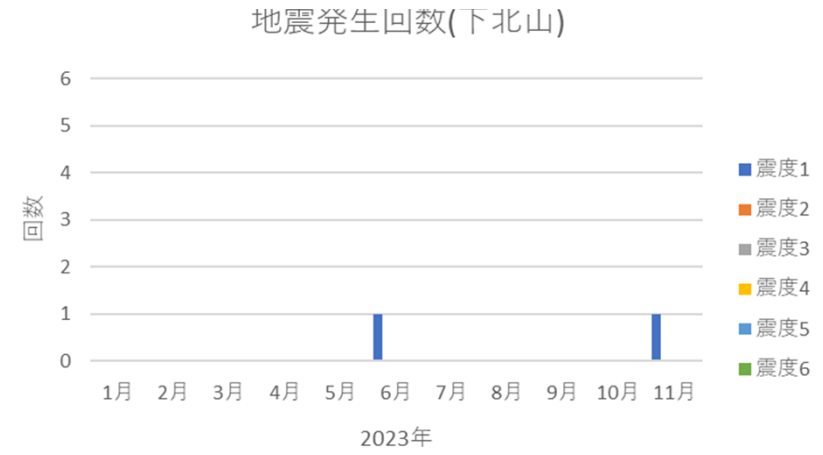
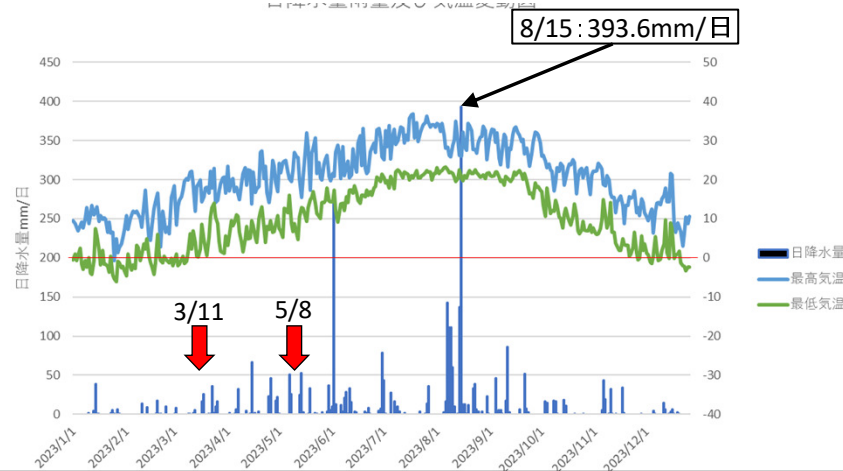
緊急点検はR4年度及びR5年度の2回実施されている。以下緊急点検結果について整理する。



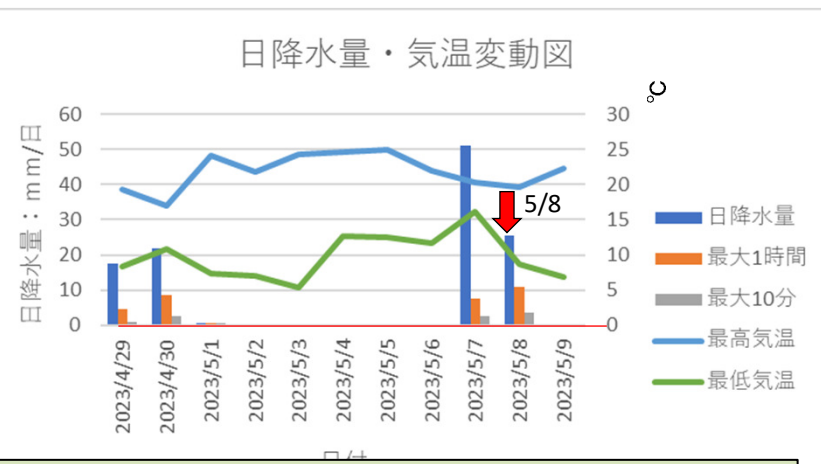
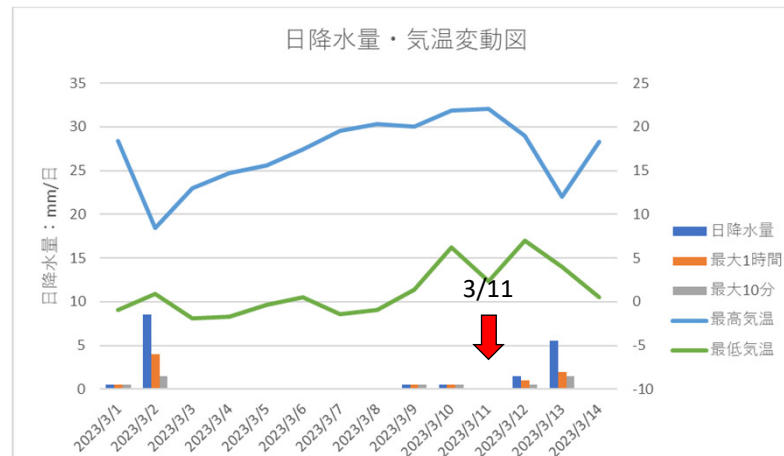
3 過去の経緯(既往緊急点検結果)

3.2 気象概要

令和5年における日降水量・気温データ(上北山气象台)及び地震発生回数(下北山震度観測点)を以下に示す。連続最大降水量は8月5日から8月11日の454.5mmである



☆R5年3月11日モルタル片が剥落。剥落発生前の3/3～8は最低気温が0度以下となり、3/9～10の日降水量は0.5mm認められた。
 ☆R5年5月8日土砂崩落。崩落発生前の5/2～6日は日降水量は0.5mm未満、5/7に日降水量51mmが認められた。

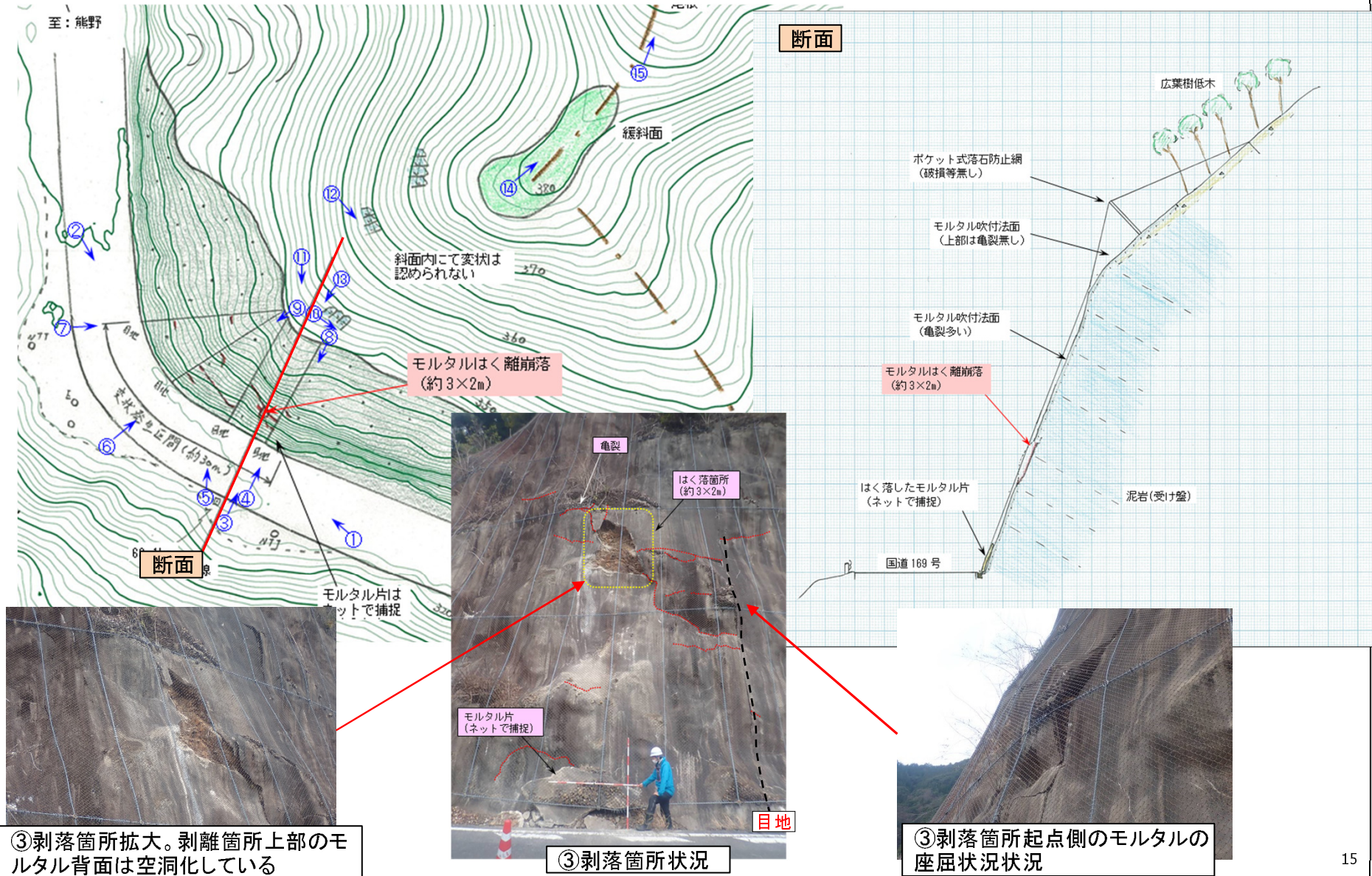


☆気象概要より、土砂崩落は、降雨や気温変動による凍結融解の影響を受け発生しているものと推察される。
 ☆今後の監視計画においては、これらの気象状況も踏まえて検討する必要がある。

3 過去の経緯(既往緊急点検結果)

3.3 R5年3月11日 モルタル片剥離状況

3月11日に発生したモルタル片剥離状況を緊急踏査レポートより抜粋し以下に示す。



3 過去の経緯(既往緊急点検結果)

3.3 R5年3月11日 モルタル片剥離状況

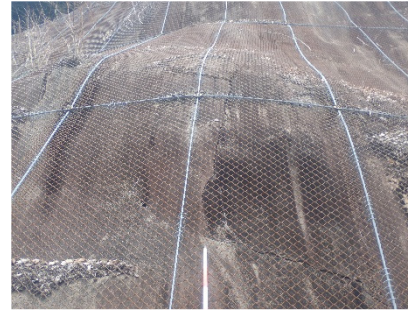
現地状写真等を踏査報告書より以下抜粋する。



④モルタル座屈変形



⑤モルタル座屈変形



⑥孕み出し



⑦目地部の孕み出し



⑨法肩部に変状は認められない



⑩斜面には変状は認められない



⑪斜面状況。泥岩露頭が点在



⑫尾根鞍部状況。変状は認められない

☆発生機構の推察：風化しやすい泥岩が分布する勾配60度以上の切土法面で切土後長年月により風化が進行し3月上旬の凍結融解を引き金として剥離崩落が発生。

☆応急対策案：法面は亀裂が生じているものの、ポケット式落石防止網が正常であることから、モルタルのはく落や少量の土砂流出には対応可能な状態である。崩落した際、落石防止網の下端より国道へ飛散するおそれがあるため、飛散防止対策として、法尻にコンパネや大型土のうを配置することが望ましい。⇒緊急対応で施工実施

☆恒久対策案：再度吹付し復旧。吹付除去後の法面状況次第となるが、法面表層の風化が著しい場合には同様な小規模の土砂流出が想定されるため、モルタル吹付工ではなく吹付法枠工（梁300×300mm、@2.0m×2.0m）とされることが望ましい。